

令和3年度 市民と市長の対話集会 市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和3年（2021年）12月15日（水）
午後1時30分から2時30分まで
- 2 開催場所 JA湘南平塚営農経済センター会議室
- 3 参加者 湘南農業協同組合青壮年部 4人
- 4 テーマ 若手農業者と本市農業を考える



ほっとミーティングの様子

5 青壮年部委員長あいさつ

本日は市長はじめ市役所の皆様、J A 湘南の皆様にもお集まりいただき、ありがとうございます。平塚の農業について有意義な意見交換をしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

6 J A 湘南根岸常務理事あいさつ

本日はJ A 湘南営農経済センターまでお越しいただきありがとうございます。また日頃から農業者支援において様々な御支援をいただき、J A 湘南としても感謝しております。ありがとうございます。

さて、市長と農業者は、農政懇談会など定期的に意見交換をしていますが、若手農業者の意見を直接市長にお伝えする機会は少ないのではないかと感じていました。これからの平塚の農業を担っていただく青壮年部の皆様と市長で、単なる要望と回答ではなく、「これからの農業をこうしていきたい」、「こういう協力をしていきたい」など、将来に向けた有意義な対話になるとありがたいと思っています。

7 市長あいさつ

皆様こんにちは。平塚市長の落合克宏です。本日はお忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき、ありがとうございます。

この「市長と語ろう！ほっとミーティング」は、市民の皆様から広く御意見や御提案をお聞きすることが重要と考え、市長に就任以来、多くの地域・世代・分野の方と対話させていただいています。

さて、農業者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響下で、日々努力され、平塚の農業を支えていただいていることに深く感謝しています。

本市では、新型コロナ対策として、「人手不足」、「接触回避」、「生産性向上」という課題をクリアするべく、全国に先駆けスマート農業導入支援制度を立ち上げ、無人自動田植機や直進アシストトラクター、アシストスーツ、リモコン草刈機、畜舎洗浄ロボット、環境制御装置などを導入し、昨年以来35件支援しました。今後も農業のスマート化、デジタル化を積極的に推進していきたいと考えています。

併せて、「きつい、汚い、危険」という従来の3Kから、「カッコいい、稼げる、感動する」農業を、新たな3Kとしてコンセプトに掲げています。特にしっかり「稼げる」ことができなければ、農業は成り立たないと思いますので、様々な農業施策を通じて、しっかり支援していきたいと考えています。

本日は皆様から率直な意見をいただけることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

8 主なミーティングの内容

【司会】

まず青壮年部自己紹介をお願いします。

【参加者】

豊田地区で露地野菜を中心に営農しています。今年度は青壮年部の委員長も務めています。本日はよろしくお願いいたします。

【参加者】

今年度の副委員長を務めています。金田地区でいちごの栽培をしています。以前には市長と共に駐日リトアニア大使に平塚の農業をアピールしたり、昨日はベジ太DXという農業番組の取材を受けたりPR活動もしています。本日はよろしくお願いいたします。

【参加者】

バラを中心に花き栽培や水稻を行っています。神奈川県の子青壮年部でも役員を務めています。市長とお話するのは、バラの花き日持ち品質管理認証制度を関東甲信越において唯一認証を受けた際に、訪問させていただいて以来となります。本日はよろしくお願いいたします。

【参加者】

主に吉沢・金目地区で露地野菜を生産しています。新規参入して今年で7年目です。自分自身の経験などをお話ししたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

【司会】

改めてJA湘南青壮年部の御紹介をします。平塚市と伊勢原市の若手農家から構成され、本日は平塚市内の豊田・大野・城島支部、金田支部、金目・岡崎支部、土沢・旭支部から御参加いただいています。青壮年部の活動は部員同士が現状の課題や解決策を語りあい、時にはJAや行政とも協力しながら地域農業の発展のために活動しています。

本日は「若手農業者と本市農業を考える」をテーマに、「担い手の確保・育成」「都市農業における環境配慮」「本市水稻の課題」などについて、市長と率直な意見交換ができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【参加者】

担い手の確保・育成について、私も今年求人を出したところ、1か月で30人ほどの応募がありました。半数ほどが若い方で、関心の高さを感じまし

た。しかし、理想と現実のギャップは大きいようで、農村でのゆったりした生活という側面だけでなく、現実の厳しい側面も伝えていかないとミスマッチが多くなってしまうのかなと思います。

【市長】

農業を実体験してもらう機会を作ることは重要だと思います。JAにも協力してもらいながら考えていきたいと思っています。私も農家の長男として生まれ、祖父、父が花き園芸をしている姿を見てきました。手伝いをした中で農業の厳しさはよくよく感じてきました。就農希望した人が正しくイメージすることは重要だと思いますし、就農者がある程度の収入が維持できるように産業として育てていく必要があると思っています。

【参加者】

私は農家に生まれましたが、大学卒業後、会社勤めを経験しました。毎日12時間以上勤務するなど過酷な労働環境でした。数年後、祖母が体調を崩したことをきっかけに会社を辞め、就農しました。給料は半分になってしまいましたが、労働時間が短くなったことで時間にゆとりができ、幸福度は上がったと感じました。特に家庭を持ち子どもが生まれてから、家族と過ごす時間を持てることはとてもありがたいなと思います。妻は、「決まった休みもない、長期休暇もない、家族での外出もままならないが、緊急時など急なタイミングですぐ家に帰ってきてくれることはとても心強い」と話します。稼ぐことも大事ですが、労働量と収入のバランスを自分自身で決められることが農業の大きな強みだと感じています。また、私の経験から、転職による収入減を乗り越えた大きな要因は、実家暮らしで家賃がかからなかったことが大きかったと思います。家賃を補助するなどして衣食住を保障することができれば、農家の跡取りが実家に戻るように、新規就農者が増えるのではないかと思います。

【市長】

農業は自然との触れ合いなど多くの魅力をもちながらも、日々多くの御苦労がある中で、幸福感を感じながら農業に従事されていることに敬意を表します。新規就農者への生活基盤や家族を養っていくだけの収入の保障は重要な課題だと思っています。住む場所についてはJAには不動産部門もありますし、市としても空き家対策なども行っていますので、新規就農者とのマッチングの仕組みづくりは必要だと思っています。

【参加者】

私も妻子を持ちながらゆっくりした生活をイメージして新規就農しました。実際に農業に従事してみると、すぐに生産性を向上させないと続けていけないと感じました。どうやったら付加価値を付けられるか、生産性を向上させられるかなど考えるようになりました。現状では普通の生活をするための生産性を維持するだけでも大変だと感じています。

【参加者】

贅沢を求めたい人には向かない分野だと思いますが、労働と収入以外の価値観を持つ人には魅力的な分野だとは思っています。

【参加者】

私の知人でも新規就農した若者がいます。1年間農家で修行したあと、平塚市から紹介された土地を借りて自分で農業を始めました。横内在住でしたが紹介された土地は土屋地区で、何より新規就農者に手に負えるか心配になるほど荒れた土地でした。新規就農者でも営農可能な程度まではしっかり整備してから紹介しないと、農業だけで生活するのは厳しいと思います。その知人も農業だけでは食べていけずコンビニでアルバイトしています。やはり生活基盤と収入の保障は必要だと感じています。

【市長】

荒廃農地の問題も含めて、休耕地と耕作希望者のマッチングは農業委員会を中心に取り組んでいます。新規就農者への支援策など、いただいた御意見は担当部にお伝えしたいと思っています。

【参加者】

金田地区でのいちご農家は20軒程度ありましたが、父の世代で10軒、私の世代だと私だけになっています。いちご狩りなどで平塚に来てもらって貴重な体験をしてもらうためには、駐車場やトイレの整備などが必要になってくると思っています。

【市長】

金田地区で青壮年部の世代が1人だけというのは驚きました。観光で人を呼び込むために駐車場やトイレの整備の必要性は認識していますが、現状では法律による土地利用制限などで難しい状況です。市としては国に規制緩和を要望しています。平塚は良い農産物がたくさんあります。多くの方にPRして、平塚に来てもらい、平塚産品を買ってもらえる仕掛けづくりはJAと共にやっていきたいと思っています。

【参加者】

都心からの観光客は、平塚を通過して、小田原・箱根方面に向かってしまっているように感じます。「平塚に立ち寄る理由がない」という声も聞きます。

せっかくおいしい海産物・農産物がたくさんあるのにもったいないなと思います。道の駅など立ち寄りたくなる魅力的な場所をつくる必要があると思います。

【市長】

圏央道の開通以来、北関東方面から湘南地域に来られる方は数倍になったと聞いています。ビーチパークなどで平塚の海を楽しんでいただく方もいますが、西湘バイパスへ通過してしまうことが多いのが現状です。そのため今回龍城ヶ丘プール跡地と東西の樹林地に「海の総合公園」を計画しています。平塚市民だけでなく、観光客にも立ち寄ってもらい、おいしい農産物などを食べて、買ってもらい、また温暖で気候も良く、子育てしやすいまちであることを知ってもらうことで、子育て世代から選ばれるまちにしたいと考えています。皆様にはぜひ魅力的な農産物を引き続き生産・販売していただきたいと思います。

9 青壮年部副委員長 閉会あいさつ

本日はお忙しい中、貴重な時間をつくっていただきありがとうございます。あっという間に時間が過ぎてしまったと感じています。今日の参加者以外にも青壮年部には多くの若手農業者がいて、様々な意見をもって日々農業に励んでいます。ぜひ本日のような機会を引き続きいただければと思います。今後も市やJAの御協力をいただきながら、平塚の農業も盛り上げていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

以 上